

新庁舎開庁

住民の利便性はどうか

幹線バスや巡回バスで対応



さかもと あや議員

新庁舎への移動手段は、新庁舎、土佐入野駅、あかつき館などの施設を経由する巡回バスや幹線バスも、新庁舎への経路をしよう改善を図って対応する。

問 開庁はいつで、住民はどのように利用したらいいのか。また、旧庁舎内の備品などの処分はどうするのか。

答 宮川 総務課長

新庁舎開庁は、平成30年1月9日からの目標で進めている。新国道56号から進入する町道、来客用の駐車場は完成するが、のり面工事は、一部残る。現国道56号からは、よどやドラッグ大方店前から新庁舎入り口までの暫定的な供用となる。

加型の協議を進めるに、防災をテーマに進めてはどうか。

答 大西 町長

防災は皆さんがテーブルにつきやすいテーマであるし、昨年の世界津波の日高校生サミットもこの考え方が根底に流れていた。

また、防災教育を担当していただいている片田先生は、コミュニティが衰退してきたのは、人口減や過疎化だけが原因ではなく、防災という切り口でコミュニティが固まっていたものが、行政が機能を収奪し、分業化が進む中で災害対応の専門職ができ、集落というコミュニティが防災を担う必要がなくなったことで衰退していったとも言われていた。

備品等は、町の出先機関や学校、保育所などで再利用を検討し、町の施設を使い地域おこし等に貢献している、あったかふれあいセンターや集落活動センター事業など公共的な組織や団体への譲渡を検討している。

まちづくり

防災を
共通テーマに協議を

一步一步
前に進めていける

問 高規格道路、大方改良道路等が出来ることで経済も動き、町の姿も変わる。住民参

相当の時間も労力も掛かろうかと思うが、防災を突き詰めていくことで、コミュニティの再生にもつながると思っっている。

伊与木川中洲

広場への

橋の建設は

再度検討したい

答 森田 建設課長

坂折地区は、平成20年度から毎年5月の連休に県内外から多くの方々が訪れる「カツオとこいのぼり川渡しフェスティバル」を開催しており、中州広場も、観光資源の一つとして「道の駅なぶら」への誘引効果が期待できる。適切な維持管理や利活用を、今一度検討したい。

問 議会で採択した請願だったが、道の駅も建設され順調に経営がなされている。地域の魅力づくりとして、再度検討すべきではないか。



橋の建設が待たれる伊与木川中洲広場